

湖南省環境基本計画評価報告書（案）について

I. アンケート調査結果について（資料 3 p69～p94 概要）

■アンケート調査概要

市民・事業者・地域団体を対象に、地域の環境に関する課題を洗い出すとともに、今後の環境施策推進の基礎資料とすることを目的として、アンケート調査を実施しました。

アンケート調査の概要は次のとおりです。

表 1 アンケート調査概要

対象者	市民 (18歳以上)	事業所	地域団体
回答期間	平成30年(2018年) 6月28日 ~ 7月11日		
配布数	2,000 件	200 件	25 件
回収数	623 件	125 件	12 件
回収率	31.2%	62.5%	48.0%

■フェイスシート

●市民

- 性別は、「女性」が 53.0%、「男性」が 45.4%と女性の割合が高くなっています。
- 年齢層は、「60代」が 26.5%と一番多く、次いで「70代以上」が 18.9%、「40代」と「50代」が 17.0%の順に多くなっています。

●事業所

- 業種は「製造業」が 33.6%と一番多く、次いで「建設業」が 14.4%、「医療、福祉」が 12.0%の順に多くなっています。
- 従業員数は「10～49人」が 42.4%と一番多く、次いで「50～99人」が 22.4%、「9人以下」と「150人以上」が 14.4%の順に多くなっています。

●地域団体

- 活動分野は「清掃美化」が 75.0%と一番多く、次いで「水環境保全」が 50.0%、「森林（竹林含む）保全」「花や緑化」が 41.7%の順に多くなっています。
- 団体の会員数は「50人以上」が 41.7%と一番多く、次いで「10人未満」が 25.0%、「10～20人未満」が 16.7%の順に多くなっています。

■アンケート調査結果概要 — 市民 —（資料 2 p69～p78）

(1) 住んでいる地域の環境の満足度と重要度（図 1）

- 地域の環境に関する重要度はいずれも高くなっています。
- 満足度は、「⑧道路などにごみが投げ捨てられていない」を除いて高くなっており、特に「①空気がきれいである」「③森や川などの自然が豊かである」が高くなっています。
- 「⑧道路などにごみが投げ捨てられていない」は重要度が高い一方で満足度が低く、改善が求められています。

(2) 日常生活における環境に関する取組状況について（図 2 p3）

- 経済的負担が少なく取り組みやすい項目「①エコバッグの持参」「⑤廃食油の取組」などは「いつもしている」の割合が高く普及が進んでいます。
- 経済的負担が大きく取り組みにくい項目「⑩再生可能エネルギー機器の設置」「⑪公共交通の利用」などは「いつもしている」の割合が低くなっています。

(3) 環境保全活動への参加経験について（図 3 p3）

- 環境保全活動として多く取り組まれているものは、「①リサイクル活動」「②清掃・美化活動」などとなっています。一方、「⑤希少種の保全活動」「⑥特定外来生物の駆除活動」などの取組は少なくなっています。
- その他、災害ボランティア、河川パトロール、公園の保全活動、近所の清掃などが行われています。

(4) 重点的に進める環境保全対策について

- 地球環境では「再生可能エネルギーの導入支援」が 43.8%と一番多くなっています。
- 生活環境では「分別、不法投棄やポイ捨ての対策」が 58.1%と一番多くなっています。
- 自然・景観では「快適な環境の創出」が 44.6%と一番多くなっています。
- 環境意識を高める取組では「学校教育における環境学習の実施」が 68.9%と一番多くなっています。

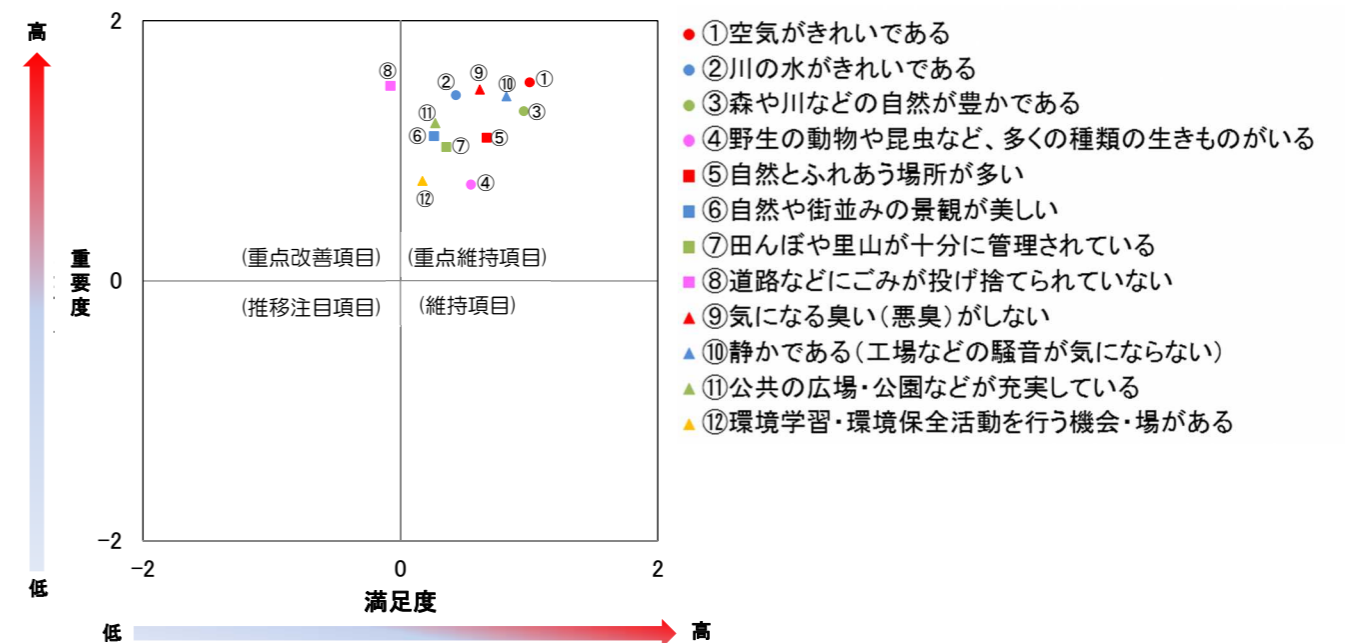


図 1 住んでいる地域の環境の満足度と重要度

■ アンケート調査結果概要 — 事業所 — (資料3 p79~p87)

(1) 環境に関する取組状況 (図3)

- 事業所内のごみの分別・減量と電源の管理は、大半が「積極的に取り組んでいる」「ある程度取り組んでいる」となっています。
- 将来の取り組みたい項目としては、エコカーの導入や再生可能エネルギーの利用となっています。しかし再生可能エネルギーの利用などは「今後も予定はない」と回答する事業所も多く、コスト面などが導入の課題となっていることがわかります。

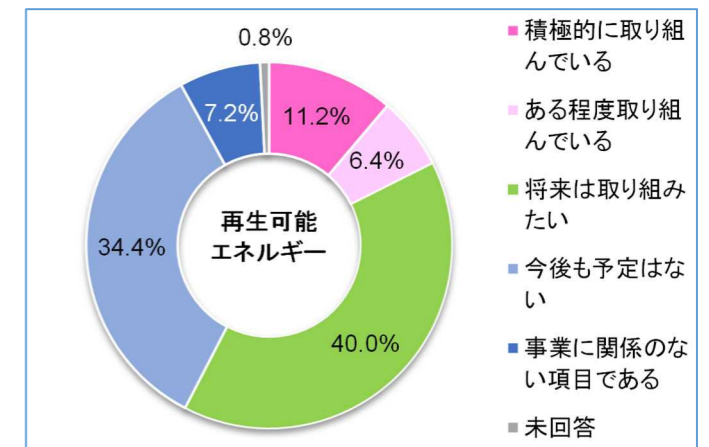


図3 再生可能エネルギーの利用導入状況

(2) 環境保全に取り組む上の課題や問題 (図4)

- 事業所が環境保全に取り組む上での課題や問題としては「①設備投資などのコストがかかる」「②環境に関する規制や制度についての情報が不足している」と考える事業所が多く、設備投資などに関する経済的支援や環境に関する情報発信が求められています。

(3) 市民、事業所、市の連携した取組や活動の実施状況

- 地域の環境保全のために市民や市と連携している事業所は3割程度に留まっていますが、「今後積極的に活動したい」「機会があれば活動したい」と考えている事業者は5割を超えています。それらの事業所の活動内容としては、緑化・美化活動への参加が多くなっています。

(4) 重点的に進める環境保全対策について

- 地球環境では「再生可能エネルギーの導入支援」が48.8%と一番多くなっています。
- 生活環境では「分別、不法投棄やポイ捨ての対策」が63.2%と一番多くなっています。
- 自然・景観では「河川などの水辺環境の保全」が54.4%と一番多くなっています。
- 環境意識を高める取組では「学校教育における環境学習の実施」が70.4%と一番多くなっています。

- ①設備投資などのコストがかかる
- ②環境に関する規制や制度についての情報が不足している
- ③環境保全対策を行うための知識や技術が不足している
- ④環境保全よりも、他に優先しなければならないことがある
- ⑤手間が多くなり、従業員の協力が得られない
- ⑥取組によって商品の値段が上がった場合、取引先などの理解が得られない
- ⑦環境保全に向けて何に取り組めばよいかわからない
- ⑧その他

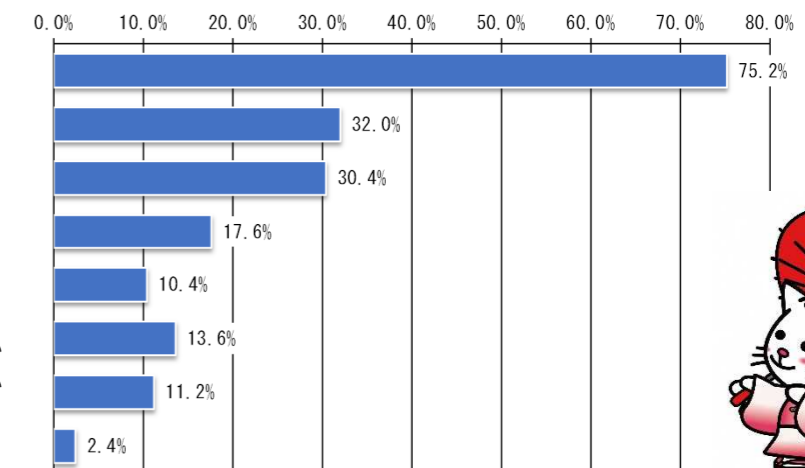


図4 環境保全に取り組む上の課題や問題

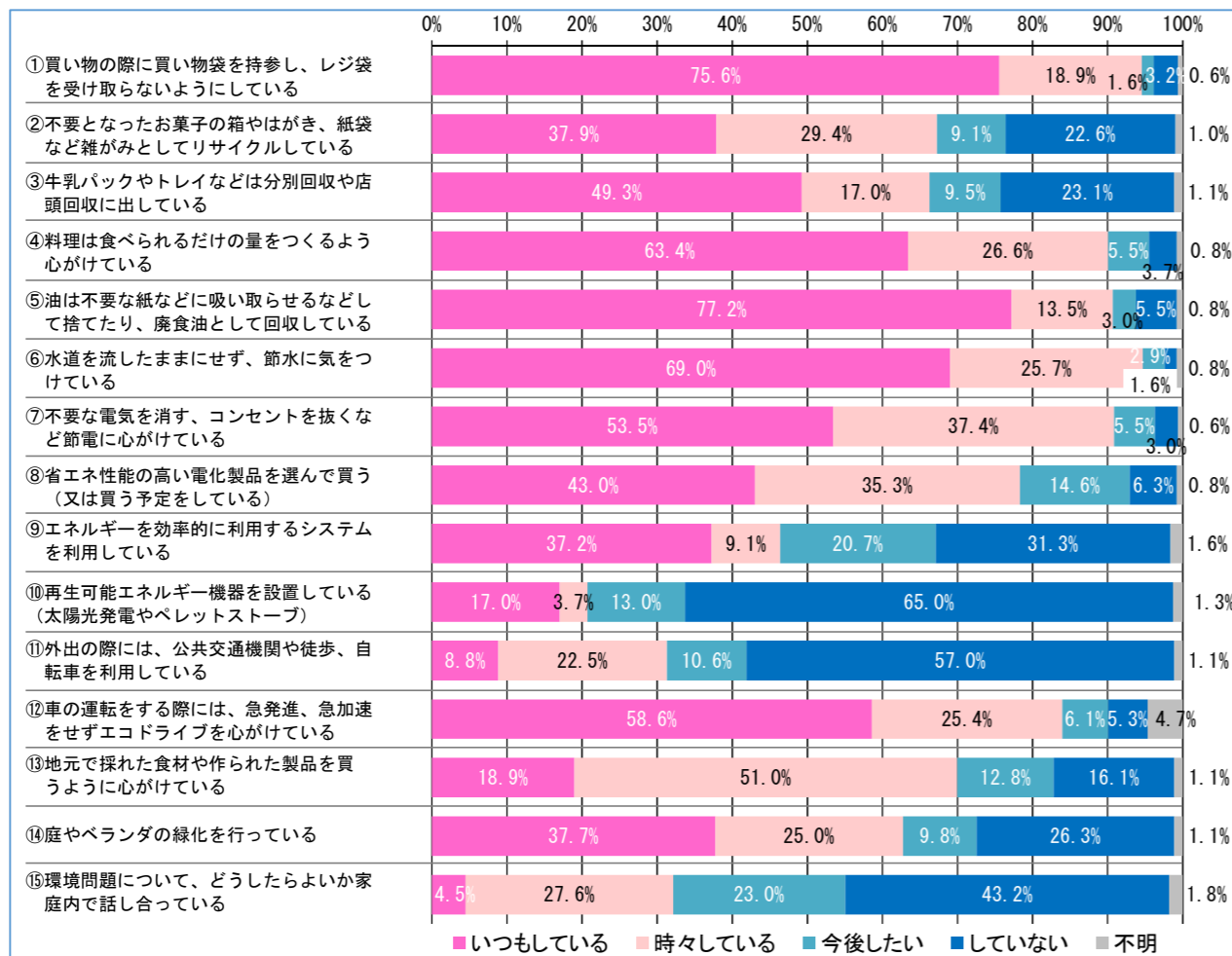


図2 日常生活における環境に関する取組状況

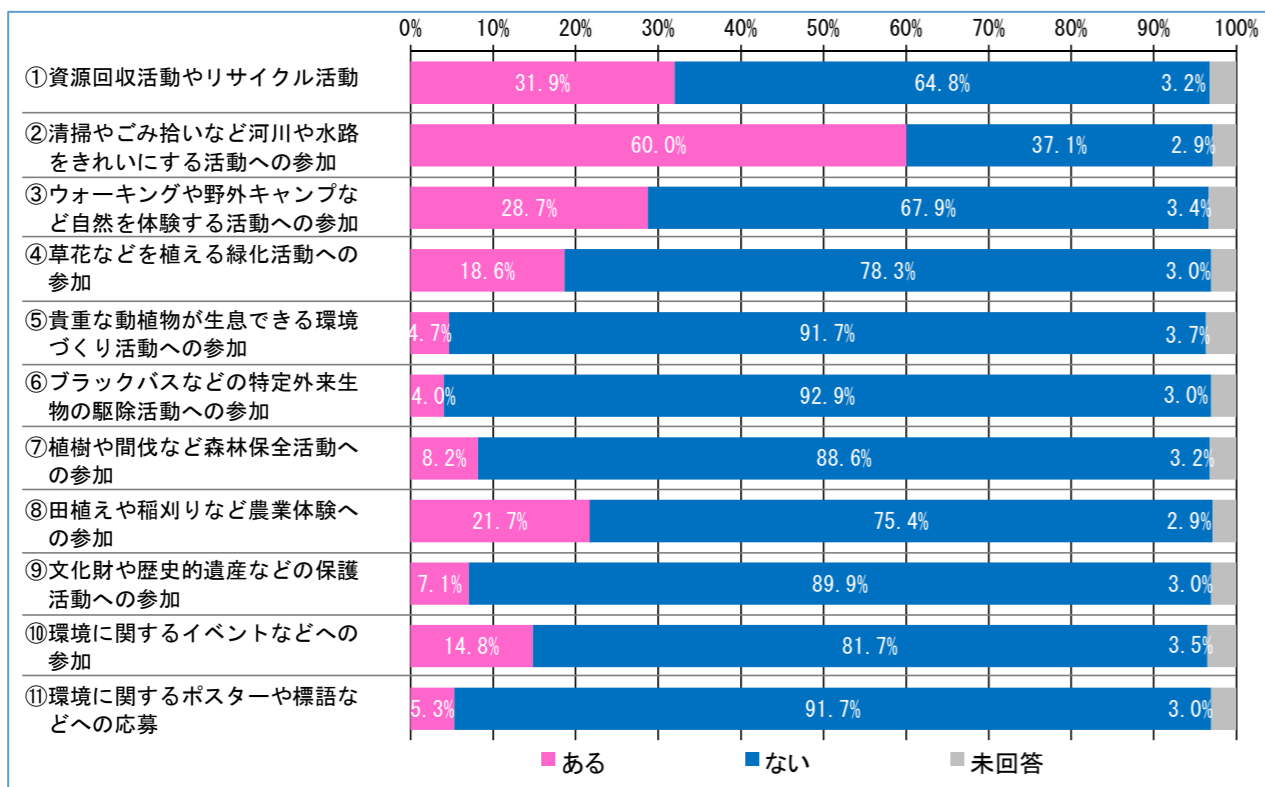


図3 環境保全活動への参加経験

■アンケート調査結果概要 — 地域団体 — (資料3 p88~p94)

- (1) 他団体との連携の有無と連携している団体の種類について
 - 他団体との連携の有無について「連携している」が66.7%となっており、連携している団体の種類としては「県や市などの自治体」「学校などの教育機関」が多くなっています。
- (2) 活動を実施するにあたってよかったこと
 - 活動を実施するにあたってよかったこととして「人間関係や交友関係が広がる」「充実感や満足感を得られる」「課題が少しでも解決される」「ものの見方や考え方が広がる」と答える団体が多くなっています。
- (3) 活動を実施するにあたって課題となっていること
 - 課題としては「活動資金」「活動を担う人材」と答える団体が多く、他にも「情報発信する場と活動場所の確保に協力してほしい」「活動助成金や協力金が受けられるようなシステムづくり」という意見もあります。
- (4) 重点的に進める環境保全対策について
 - 地球環境では「ごみの排出抑制やリサイクルの取組による廃棄物の減量化」が58.3%と一番多くなっています。
 - 生活環境では「ごみの分別、不法投棄やポイ捨ての対策」が83.3%と一番多くなっています。
 - 自然・景観では「森林の適正な育成、管理」が66.7%と一番多くなっています。
 - 環境意識を高める取組では「学校教育における環境学習の実施」が66.7%と一番多くなっています。
- (5) 地域団体の活動事例

団体1

活動項目：水環境保全、清掃美化
 会員数：30~50人未満
 活動頻度：年数回程度
 活動地区：水戸小学校区、茶釜川
 内容：清掃活動、ゴミ拾い、環境に関する協議会への参加。

団体2

活動項目：地球温暖化対策やエネルギー、清掃美化
 会員数：10~人未満
 活動頻度：月数回程度
 活動地区：石部小学校区、石部南小学校区
 内容：ガールズスカウト日本連盟に所属し、少女たちと共に地域の中で活躍できる、貢献できる活動を目指す。

II. 現行計画の進捗状況について (資料3 p61~p68 概要)

■現行計画の進捗状況の評価 (参考資料1)

- 現行計画では、5つの基本目標と20の基本施策、77の具体的施策を示しており、これらの施策の進捗状況を把握するため、環境に関連する各課を対象として、事業の実施状況をヒアリングしました。
- 基本目標単位で基本施策の実施状況を見てみると、全ての基本施策が取り組まれており、実施率は100%となっています。
- 基本施策単位で具体的施策の実施状況を見てみると「10 その他の地球環境問題への取組み」を除く全ての具体施策が取り組まれており、実施率は98%となっています。
- 事業としては基本目標「協働」の「17 環境学習・環境教育の推進」や基本目標「共生」の「2 身近な自然生態系の保全と創造」が多く行われています。一方で基本目標「循環」の「10 その他の地球環境問題への取組み」や基本目標「協働」の「20 環境自治に向けた体制の構築」は事業数が少なくなっています。

現行計画の施策実施状況

基本目標	基本施策	基本目標単位の評価			基本施策単位の評価				
		基本施策実施数	実施率	事業数	具体的施策実施数	実施率	事業数		
共生	1 多様な自然環境の体系的な保全	4	4	100%	15	6	6	100%	9
	2 身近な自然生態系の保全と創造					5	5	100%	10
	3 自然とふれあう機会の創出					3	3	100%	8
	4 自然景観の保全、活用					4	4	100%	5
循環	5 ごみ減量・リサイクルの推進	6	6	100%	13	5	5	100%	4
	6 省エネルギーの推進					3	3	100%	2
	7 環境負荷の小さいまちづくりの推進					4	4	100%	5
	8 琵琶湖とのつながりを意識した流域環境づくり					4	4	100%	3
	9 地球温暖化防止への取組みと対策推進					2	2	100%	2
	10 その他の地球環境問題への取組み					2	1	50%	1
快適	11 生活環境の確保	3	3	100%	7	7	7	100%	2
	12 環境美化の推進					3	3	100%	2
	13 水と緑を生かした田園都市景観の形成					2	2	100%	4
文化	14 歴史資源や伝統文化の保全と継承	3	3	100%	9	5	5	100%	7
	15 東海道沿いの町並みの再生					2	2	100%	2
	16 環境文化の創造・継承					2	2	100%	3
協働	17 環境学習・環境教育の推進	4	4	100%	12	4	4	100%	13
	18 環境情報ネットワークの整備・提供					4	4	* 100%	* 4
	19 環境保全活動の推進					4	4	100%	2
	20 環境自治に向けた体制の構築					6	6	100%	1
合計		20	20	100%	56	77	76	98%	89

※ * マークのある施策については一部実施のものを含んでいる。

※表中の事業数について、複数の基本施策、具体的施策に該当する事業については、重複して実績を掲載している。

- 現行計画では11の重点プロジェクトを設けて取組を進めてきましたが、7つある数値目標のうち、2つ（農業体験事業の開催件数、出前講座等の開催回数）は目標を達成しています。
- 重点プロジェクトの進捗状況について、「重点プロジェクト2 里山プロジェクト」を除くプロジェクトはいずれも一部が実施であったり、進展がないものが複数あったため、本計画ではプロジェクトの内容や実施数を再検討する必要があります。

■国内外の現状と課題

自然環境に関すること	地球環境に関すること	資源循環に関すること	生活環境に関すること
<ul style="list-style-type: none"> 地球環境の変化により生物多様性の喪失が進んでおり、主な原因は人間活動による影響であると考えられています。 国は「生物多様基本法」を施行、「生物多様性国家戦略 2012-2020」を策定し、生物多様性保全の取組を進めています。 生物多様性は4つの危機に直面しており、危機を回避するため、人と自然の関係の見直しが重要な課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 産業革命前からの世界の平均気温上昇を2℃より十分低く保つことなどを目標にした「パリ協定」が締結・発効され、各国で温暖化対策が進展しています。 国は「地球温暖化対策計画」を策定し、平成42年度(2030年度)までに温室効果ガスの総排出量を平成25年度(2013年度)比26.0%削減することを示しています。 東日本大震災での原発事故を契機に国のエネルギー政策が見直されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 天然資源に対する需要は拡大の傾向にあり、環境負荷が増大すると同時に、資源制約が経済の足かせになることが懸念されています。 従来取り組んできた3Rなどの資源生産性を高める取組を一層強化し、特に食品ロスについては消費者の理解のもと、事業者の協力を得て進めていくことが重要な課題となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 環境基準の達成状況は改善傾向にあり、公害に対する対策は一定の成果を上げていますが、未解決の問題や課題も多くあります。 こうした汚染への対応は、市民の健康や生活環境を守る上で、引き続き重要な課題となっています。



■市の現状と課題

湖南省	自然環境	生活環境
<ul style="list-style-type: none"> 平成27年(2015年)の人口は約5万4千人、世帯数は約2万1千世帯となっており、人口減少及び少子高齢化の進行により、環境保全の担い手が不足する可能性があり、担い手の育成・確保を考えていく必要があります。 土地の利用の割合をみると、保安林・河川などは約6割を占めています。田畑や山林の面積が減少する一方で、宅地や雑種地の面積が増加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 特定外来生物の分布域拡大や有害鳥獣による農林産物や生態系への影響が懸念されるため、生物多様の保全・再生を進める必要があります。 特定植物群落に選定されているウツクシマツの自生地では、地域と協力した保全が進められていますが松枯れ被害が問題となっています。 里山保全事業や、河川保全事業など身近な自然景観の保全が行われており、今後も継続して保全を進めるとともに、自然の様々な恵みを再評価し、持続的な利用を促すことが必要となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 大気、自動車騒音、河川などの水質の監視が実施されており、今後も継続して良好な生活環境を維持する必要があります。 河川の大腸菌群数について、多くの地点で環境基準値を超えていますが、市域に限らず流域全体が超過しています。 相談のある苦情の多くは騒音や悪臭などに関する内容ですが、大きな公害は発生していません。 年間約14,000kgもの不法投棄の回収を行っており、ごみのポイ捨てや不法投棄をしない・させない環境づくりを強化する必要があります。
<p>快適環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市の歴史・文化などを次の世代へ残していくため、今後も継続して環境学習やイベントを通じた保全・活用を進める必要があります。 東海道沿いの町並みの保全が行われており、今後も継続して保全するとともに、様々な地域資源と連携させて保全・再生を積極的に進める必要があります。 市では空き家・空き地が増加しており、「湖南省空家等対策計画」「実施計画」に基づき適正な対策に取り組む必要があります。 	<p>地球環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市では、コナン市民共同発電所などの太陽光発電やイモ発電、こなんウルトラパワーの取組など多様な自然エネルギーが積極的に利用されており、市の特性として今後も利活用を進める必要があります。 本市は琵琶湖につながる野洲川の中流部に位置しており、下流地域や琵琶湖の水質への影響が大きいため、流域を意識した水質保全などに協力する必要があります。 地球温暖化対策における様々な取組が行われており、一人一人が意識して取り組んでいく必要があります。 	<p>人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境保全活動や環境に関するイベントを通して住民の環境保全意識の向上が図られており、今後も様々な団体と協働して活動に取り組む必要があります。 将来を担う子どもたちの環境に対する関心を高めるため、「やまのこ」「たんぼのこ」などに取り組む必要があります。



ウツクシマツ 出典：滋賀県ホームページ



「たんぼのこ」事業の様子 出典：滋賀県ホームページ